

会員の声

育児利用会員さんの声

広沢町 在住のTさん

母親と祖母の用事が重なってしまい、育児依頼することになりました。

当日、子供を預け別れるとき少し泣いたので心配しましたが、4時間後迎えに行くと、2人のお兄ちゃん、おじいちゃん、おばあちゃんに囲まれ、家族の一員のような顔で出迎えてくれほっとしました。

おむつ換えや、食事の量などのメモを頂き元気にしていた様子も判り安心すると共に感謝しています。

育児協力会員さんの声

大間々町在住のKさん

初めて育児を引き受けました！
面接通り、元気で明るい13才の男の子！
本当に久しぶりに子供の声が家に流れ、楽しい16時間でした。
お話もとてもじょうずで、3才の発達度に改めて驚き、外遊びをしても、大人では考えられぬ発想で放置してあるものをおもちやにしてしまう。

ご家庭の様子やしつけが窺われ、感心する中に微笑みさを感じ、久しく忘れていた子供との接触到、夫も娘も楽しく過ごさせて頂きました。

追記
偶然にも子供の名前の3文字までが亡父と同じという共通点があり、これも何かのご縁かと思いました。
これからも、いろいろなボランティアができれば良いなーと感じた1日でした。ありがとうございました。

介護協力会員さんの声

相生町在住のHさんの声

“ 協会会員として出来る範囲のお手伝いをさせて頂いておます ”利用会員宅へおじゃまし、お掃除をしていますがご自分で出来ない所を「して頂いて」と、喜んで頂いていると同時に、私の方がいろいろ学ばせてもらい、逆に深く感謝させて頂いております。

介護利用会員さんの声

平井町在住のIさん73才の声

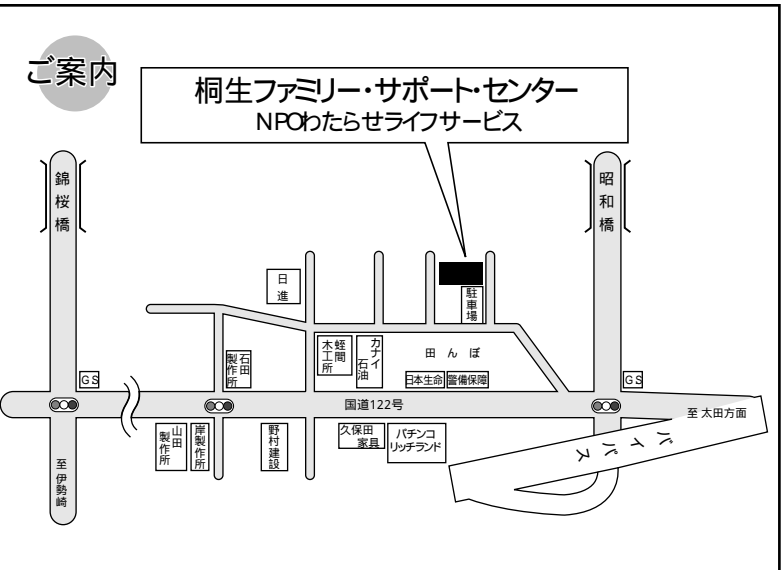
昨年12月、たまたまNPOわたらせライフサービスの存在を知り、その紹介で桐生ファミリーサポートセンターの御世話になって居ります。

最初にきてくれた方は看護婦さんの経験があり、様々な健康についてのアドバイスを受けました。

(不幸にしてお義母さんを亡くし一時中断しましたが)次に紹介された方は調理師さんで、料理の質及び、種類に就いて大変恩恵をうけ満足して居ります。

斯様に各々豊かな経験を持つスタッフのサービスを提供下さる、貴センターに感謝して居ります。

「桐生ファミリーサポートセンター」が開設して半年が過ぎました。
“ 月日のたつのは早いもの ”を実感として感じた事務局ですが、足早に過ぎたこの間を振り返ってみると、失敗・反省・改善の繰り返しでした。
「センターだより」作成の話がでてからは、初めての編集に苦労しましたが、利用会員の笑顔に励まされ、第1号の便りを発刊することができました。
これからも、皆さんからのメッセージ伝達ならびに情報公開の場として継続していきますので、ご



桐生ファミリーサポートセンターだより



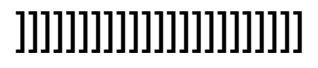
発行 桐生ファミリーサポートセンター
特定非営利活動法人(NPO法人)
わたらせライフサービス
事務局 〒376 0013 桐生市広沢町1 2619 7
TEL0277 70 6677 FAX0277 70 6789
email info@wataraselife.jp
URL http://www.wataraselife.jp



桐生ファミリーサポートセンター
開所によせて
桐生市長 大澤 善隆

育児と介護の相互援助活動の会員組織であります、桐生ファミリーサポートセンターが開設できたことに対しまして、非常な喜びを感じると共に、運営をいただいておりますわたらせライフサービスの皆様のご尽力に対し心から感謝申し上げます。

当センターは、NPO法人への運営委託と、育児介護の両立支援といった点で全国的に注目されております。設立後の会員数やサービス件数の増加状況も注目されていると聞き心強く思っております。今後とも皆様に愛されるセンターとして、関係者と協力しながら活動を行う事をお約束し、ご挨拶いたします。



桐生ファミリーサポートセンター
開所によせて
桐生市議会議員 川嶋 伸行

10月1日、小雨の中で行われた開所式から、およそ半年が経過しました。新規事業の立ち上げということで、開設準備から何かとご苦労を重ねられた関係者の皆さんに感謝しています。

皆さんの努力もあって、会員や利用実績も順調に伸びつつあると聞き及んでいます。

援助や介護を求める住民のサポートについては、時代の要請であり、家族のみならず現代社会を側面から支えたいへん重要な役割であると認識しています。

日常的な利用者はもとより、突発的な対応が可能であることなど、多くの住民への情報提供をお願いしたいと思います。
今後のご発展をお祈りしております。

桐生ファミリーサポートセンター
開所によせて
NPOわたらせライフサービス
理事長 宮地 由高

桐生市を始めとして、国や県等の関係機関ならびに沢山の市民の皆様の温かいご理解のもと、このたび、桐生ファミリーサポートセンターが私

たちNPO法人の委託運営により開設できましたことは、「市民サービスの充実」「市民参加のまちづくり」という視点からも大変画期的なことであり、わたらせライフサービスが社会的にも認知されてきたことの現れと、心より感謝申し上げます。

そうした社会的責任の大きさを自覚すると共に、市民の立場に立った運営を常に心がけ、皆様のご期待に応えられるよう頑張っていきたいと思っております。

今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2001年10月1日
サポートセンター開設
「仕事」「育児」「介護」の
両立支援を官民共同で始動

事務所だより



細井盛一先生



小川 竜先生

発表事例

介護協力員 太古前 菊代さんの事例



《もう、帰っちゃうんかい…》と、自分が必要とされている嬉しくなるような、こんな言葉が聞かれるようになったAさんのことをお話させていただきます。

現在、市内にお住まいの87才の男性Aさんの生活をサポートしております。Aさんのお連れ合いは入院中のため、Aさんは一人暮らしです。

依頼当初は、あまり顔色が冴えず、身が先構わない状態でした。Aさんの食生活は、ほぼ毎日、何度となく散歩に出掛けては、好きな食べ物を買い、それを召し上がっておられたようです。

家の中は、その食べ残し等が散乱しており、決して衛生的な環境とは言えない状況でしたので、Aさんの様子を見ながら、まずは部屋の片づけや掃除から始めました。

Aさんは突然の介入に、慥然とした表情をされて「何故、入ってくるんだ!」と、怒りを顕にされた事がありました。

それから、Aさんは2回ほど貧血を起こして倒れられ、入退院を繰り返しました。

その後、体調も回復され退院してからは、協力会員4~7名のプロジェクトチームが生まれ、1週間毎日、朝・昼・夕で3~4回の介護態勢を整えました。

また、ヘルパーさんも援助に加わり、お互いに連携を取りながら、Aさんの生活をサポートするケアを中心に取り組んでおります。その甲斐あって、近頃は、顔色も大分健康色となって、表情も大変明るくなり「寂しいなー!」というお声は以前ほど聞かなくなった代わりに、「もう帰っちゃうんかい…」と、名残惜しそうに呟かれたり、色々な楽しい会話も弾むようになりました。

身近なところで困っておられたAさんファミリーに、私達の「温かな手」を差し延べてあげられて、本当に良かったと痛感しています。

これからは気軽に誰もがサポートを受けられるような、社会全体で支える介護を目指して、ボランティアに尽力していきたいと思っております。

育児協力員 石 久美子さんの事例



初めてサポートさせていただいたお宅でのこととお話させていただきます。

仕事の流れとしては、保育園に通う男の子(6才)と女の子(3才)のお迎えに行き、お兄ちゃんのカバンに入っている鍵で家に入ります。それから、洗濯物を取り込み、夕食材料セットで夕食の準備をし、お父さんの帰りを待ちます。

よそのお子さんを預かり、「慣れてもらうにはどうしたら」と考えて見ましたが、「仲良くなりたい」という気持ちが大事なかなと思いました。「上から物を言わない・何でも話してね!」という言葉掛けにより、子供の心を開き、安心するよう心がけました。

初めてお迎えにいった日、女の子は泣いていましたが、「かわいいチャイルドシートを借りてきたよー」と、いうと泣きやんでくれました。車の中でお話をし、ディズニーのビデオや、歌うのが好きだという事を知り、翌日のお迎えでは、童謡のカセットと一緒に歌ったり、ディズニーのビデオを見たりしているとお手伝いもすすんでやってくれました。

何週間か経ち、すっかり仲良くなった頃、いつもお兄ちゃんのカバンに入れてくれる鍵を、お父さんが入れ忘れるというハプニングがおきました。

あいにく私の携帯電話は、電池切れで使えず、いつもならば「えー!どうしようー」といって慌てるのですが、自分があせったり、不安な様子を見せたりしたら、この子たちが不安になってしまう。落ち着け!落ち着け!と、自分に言い聞かせました。3人で、近くのコンビニの公衆電話からファミリーサポートセンターへ電話をし、お父さんに連絡してもらったら30分で戻るから待っていて下さい、とのことでした。外で待つには、とても寒いのでコンビニでおやつを買い、車の中でカセットを聞きながら待っていました。時間を見計らって外に出ると、ちょうど、お父さんが帰ってきました。子供達がお父さんに駆け寄り、お父さんは謝りながらも、子供達を抱きしめていました。見ていた私は、「素敵な家族だなー」と思いました。

後日談になりますが、子供達は「お父さん、また鍵を入れられないかなー」などと言っていたのを聞いたとき、お父さんを待つ30分間を、子供達と一緒に楽しめたんだーと感じほっとしました。

こんなハプニングに対し、自分一人だったら途方に暮れてしまったかもしれませんが、ファミリーサポートセンターが、適切な判断と処理をしてくれたので本当に助かりました。

我が家の子供達は、毎日「今日は何のおかずだった?」と、楽しみにしていて、「今日は…ですごく美味しそうだったよ」という、「お母さん、失敗しなかった?」とか、「うちもそれにしようよ」という調子で、親子の会話が多くなり、そして私の食事レパートリーも増えました。

少しでもお役に立てれば、という気持ちで始めた仕事ですが、勉強させてもらっているのは、私のほうだなーと、感じつつ、自分のペースで社会参加する機会をもてたことがとてもうれしく思っています。

【普通救命講習会のお知らせ】
桐生市消防本部により3月2・6日
で開催いたしました。

新規に協力会員の登録を希望される方
今回受講できなかった協力会員さん
次回開催時は是非ご参加下さい。

事務局を
ご紹介しまーす!!

桐生ファミリー
サポートセンター
育児担当《山口恵子・高木京子》
介護担当《梅山一枝・深沢智江子》
わたらせ
ライフサービス
《深沢智江子・山本千恵》

平成14年2月末現在の登録会員ならびに活動実績

育児会員数：128人	介護会員数：106人
利用会員 49人	利用会員 34人
協力会員 65人	協力会員 68人
両方会員 14人	両方会員 4人
282回 330時間	273回 333時間